

# 新潟県立長岡聾学校

新潟県立長岡聾学校通級指導教室

〒940-0093 長岡市水道町2-1-13

Tel 0258-38-0210 (通級指導教室)

\*18:00頃までをお願いいたします。メールもご利用ください。

FAX 0258-39-5665

e-mail [school@nagaokarou.nein.ed.jp](mailto:school@nagaokarou.nein.ed.jp)

発行：令和7年3月 令和6年度 第11号

## きこえ通信

当校 HP にも掲載中!

<http://www.nagaokarou.nein.ed.jp/support.html>

## 1年間ありがとうございました!



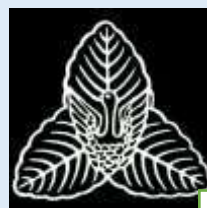
昨年度より、「難聴についてより多くの方に知ってほしい」という思いから、「きこえ通信」として配付させていただきました。お読みいただきありがとうございます。「いつも読んでいますよ」「知らなかったことを知ることができてよかったです」などと声をかけていただくこともあり、うれしく思いました。そのためか、今年度は小中高とも相談数が昨年度より増えました。きこえにくさのある児童生徒でまだ支援につながっていないケースを少しでも減らせるよう、来年度もよろしくをお願いいたします。



3月とはいえ、まだまだ季節は冬です。学校の周辺でも、白鳥の飛ぶ姿が見えたり鳴く声が聞こえたりしています。実は、白鳥は長岡聾学校のシンボルです。由来は日本書紀にある「垂仁天皇の皇子が白鳥をきっかけに話せるようになった」というエピソードによると伝わっています。当校は、校章や生徒会(白鳥会)の公式マスコットキャラクターに白鳥が登場しています。

この時期、卒業学年の児童生徒は次への進路が迫ってくる頃です。新しい環境へ期待と不安が混じり合っていることと思います。白鳥の優しい鳴き声は、そんな子どもたちへのエールのように感じます。

児童生徒の皆さんも、白鳥のように次のステージへ大きく羽ばたいてほしいと思います。このたよりを読んでいる皆さんも、児童生徒へ励ましを届けてほしいと思います。



長岡聾学校  
校章



長岡聾学校白鳥会  
公式マスコットキャラクター  
「ミライくん」

## 中3の生徒と「きこえのトリセツ」を作りました!

難聴通級は中3で終わりです。高校生になって相談に来てもいいのですが、聾学校としての定期的なきこえのサポートは終わります。高校等へ進学すると、今までのように小さい頃からよく知っていて、気遣ってくれる友達も大幅に減ります。そこで、今まできこえの学習をしてきたことをもとに、「自分のきこえや周囲にお願いしたいことを自分で伝える」ことで、自分で「困り感を減らす環境作り」が大切になってきます。これは、その先の進学や就職等の場面でも同様です。



通級としては、毎年の中3の生徒と「きこえのトリセツ」を作成しています。まず、自分の聴力を確認し、どんな場面でもどのように聞こえるか、困ることは何か、どうしてもらえると助かるか、アンケートに記入します。それから、三つ折りの用紙に記入し、仕上がりはパンフレットのようになります。生徒の気持ちは個人差があり、全部自分から伝える、聞かれたら言う、言わない、などそれぞれですが、「きこえのトリセツ」を作成しておくことで、必要な時に話すことがしっかりできると思います。

令和6年4月から、行政機関等に加え事業者についても「合理的配慮提供の義務化」が始まりました。実施に当たっては、自分でお願いすること、お互いに話し合うことが大切とされています。「きこえのトリセツ」作成の経験を生かして、過ごしやすい学校や職場環境を自分で作り出してほしいと思います。

## 難聴のある子への「季節感」の指導について

難聴のある子への「季節感」の指導について、筆者は筑波大学の公開講座で聾教育のベテランの先生から『季節感は命がけて教えよう』と教わりました。きこえにくさがあると季節感が身につきにくいと言われています。季節も日々移ろうため、この季節や気候になったからこんな花が咲く、こんな野菜が出回る、こんな行事がある、などと変化します。変化し、流れていってしまうことは、「あっ」と思ってもずっとそこにはありません。その都度、時期と事象を結び付けて教えることが難聴のある子へは大切です。当通級ではほぼ毎月「季節のプリント」を学習の一環として実施しています。実施してみると意外と「銀杏(いちょう)」、「冬囲い」などの身近な言葉が分からないケースが多いです。中学生ならば知っておいてほしい祝日の名前やことわざ、季節の習慣(行事の食べ物など)も同様です。きこえにくさがなければ、自然と「耳学問」で身につくこともありますが、きこえにくさがある場合は、「耳学問」が難しいこともあります。補聴器や人工内耳を装着していても、意識が向いていないことがあり、また家庭では補聴器を外したりTVなどの音があつたりする場合があります。「学校では困っていることはない」という生徒は多いです。日々の学習は教科書や板書、プリント、資料などがあり、目で見て助けられている場合が多いです。それに比べて、季節感などの話題は日常会話に多く、聞き洩らす場合があります。

ではなぜ、季節感が大切なのでしょう。筆者なりの考えです。①国語などの教材文に書かれた季節を表す内容で状況を表すことがある。それは「暗黙の了解」になっていて、季節感を知っていることが理解につながる。他の社会や自然の事象も季節が関わっていることがある。②社会に出てから、他の人との会話の話題となる。特に②は、職場などのコミュニティで他の人とのコミュニケーションに役立ち、難聴のある子が疎外感を感じずにすむのではないかと考えます。

家庭や学校で負担感なく季節感の意識を促すためには、近くの植物や日々の食べ物(学校であれば給食)を利用するのも1つの方法かと思います。機会を捉えて、話題にしていただけるとありがたいです。

### 3月21日に「終了式」を実施します。

これまでの学びを振り返る機会としたいと思います。過去の終了式実施後に、「同じ立場の人に会えて良かった」、「安心して話せる」などと、生徒たちは喜んでいました。今年度は、きこえ友の会、難聴のある先輩の話聞く会など、全員、または複数人で集まる機会をもちました。難聴の人は1000人のうち、2~3人くらいと言われていて、数が少なく、モデルが見つげにくいのが現状です。コロナ禍以降も他の人とのつながりがもちにくいからこそ、仲間との出会いや縁を大切にできればと思います。

内容は、終了証書の授与、当校校長からの言葉、感想発表、簡単なレクリエーションの予定です。欠席の場合、終了証書は3年生は自宅、1、2年生は学校へ送らせていただきます。



### ありがとうございました！

この1年間、通級生徒の保護者の皆様、在籍校の先生方には大変お世話になりました。難聴は見えにくい、理解されにくいと言われていました。その分、生徒本人の困り感を聞き、気持ちに寄り添う支援が大切ではないかと考えています。

在校生在籍校の先生方、4月からどうぞよろしくお願いたします。3年生の在籍校の先生方、普段の連絡の他に進学に関わる手続きへのご協力をありがとうございました。今後、再び難聴のある生徒とのご縁がありましたら、これまでのご指導の経験を役立てていただければ幸いです。保護者の皆様、1年間お世話になりありがとうございました。何かありましたらいつでもご連絡をお願いいたします。